

地球温暖化防止のため CO₂削減の活動にご協力を

- 「那覇都市圏CO₂削減キャンペーン」の実施 -

京都議定書目標達成計画が閣議決定され、2010年までのCO₂削減目標の達成に向けた取組の一環として、国土交通省では平成18年10月24日より、全国的に「エコロード・キャンペーン」を実施します。

沖縄県内では、「那覇都市圏（那覇市、豊見城市、浦添市、宜野湾市、西原町、南風原町）」を重点地区として、下記キャンペーンを実施します。

県民の皆様に対し、一人でも多くの方がこの活動へご参加下さり、各取り組みに対しご協力のほどよろしくお願い致します。

「那覇都市圏CO₂削減キャンペーン」活動について（別添1）

エコドライブの推進・普及キャンペーン

通勤者を対象とした公共交通利用促進キャンペーン

バスレーン活用パーク&バスライドの実施

那覇新都心でのレンタサイクルの実施

タウンミーティングを実施（那覇市環境フェアにて開催を予定）

喜舎場スマートIC社会実験の実施

道の駅 喜名番所でのCO₂削減の取組に関するパネルの展示

その他

全国で統一した「エコロード・キャンペーン」のロゴマークを使用したポスターの掲示や、ステッカーの配布等による、広報活動の実施

沖縄地方渋滞対策推進協議会にて作成した「道路交通におけるCO₂削減方策」パンフレット（別添2）の配布による、広報活動の実施

沖縄地方渋滞対策推進協議会：沖縄総合事務局、沖縄県、那覇市、沖縄県警本部、西日本高速道路（株）九州支社沖縄管理事務所

問い合わせ先

沖縄総合事務局 開発建設部 道路建設課

課長 田中 衛
道路計画調整官 喜舎場 正秀

電話 098-866-0091（直通）



道から、ストップ温暖化。
ECO-ROAD

【那覇】那覇都市圏CO2削減キャンペーン

別添1

重点地区

那覇都市圏：那覇市、浦添市、宜野湾市、南風原町、豊見城市、西原町

実施主体

那覇都市圏渋滞対策WG

[沖縄総合事務局 / 沖縄県 / 沖縄県警察本部 / 西日本高速道路株 / 那覇市 / 浦添市 / 宜野湾市 / 南風原町 / 豊見城市 / 西原町]



概要(背景・目的)

沖縄県は、3大都市圏以外を除くと全国ワースト1位の渋滞の多い状況にあり、その中でも那覇都市圏の渋滞が集中しています。また、それに伴うCO2についても増加傾向にあります。

そこで、これまでの道路整備などの取り組みだけでなく、県民と道路管理者が連携した取組として、以下の取り組みを実施します。

取り組み内容

エコドライブ

国道沿いでプラカードによる呼びかけ等の実施によりエコドライブの促進・普及を図ります。

通勤者を対象とした公共交通利用促進キャンペーン

公共交通利用による経済面等の効果についてPRし、通勤手段を自家用車から公共交通へ転換を図ります。

バスレーン活用パーク・アンド・バスライド

パーク・アンド・バスライドの実施により、那覇市中心部への通勤自家用車数の減少を図ります。

レンタサイクル

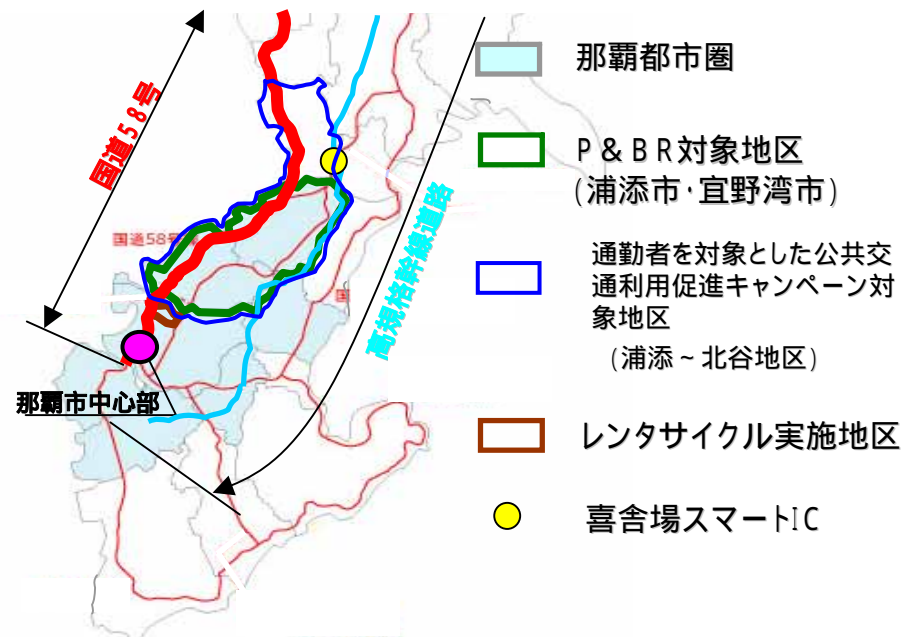
パーク・アンド・サイクルライド駐車場を設置し、新都心内の回遊車両を自転車交通への転換を図ります。

タウンミーティング

CO2削減の取り組みについて、県民の皆様と道路管理者とで意見交換を行い、理解と協力を広げます。

喜舎場スマートIC社会実験

沖縄自動車道喜舎場BSにてスマートIC社会実験を行い、高速道路利用促進を図ります。(実施主体：喜舎場スマートIC地区協議会)



道路交通におけるCO₂削減方策

別添 2

変えよう車の使い方、
つくろおう環境に優しい道路、
残そう美ら島

 速から、ストップ温暖化。
ECO-ROAD



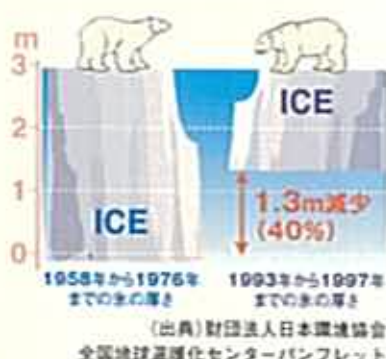
待ったなしの地球温暖化防止

CO₂の増加が地球を、そして、美ら島も減ぼす…

産業の発展やライフスタイルの変化に伴い、私たち人間は石炭や石油などを大量に消費するようになりました。その結果として、大気中の二酸化炭素(CO₂)は大幅に増加しました。

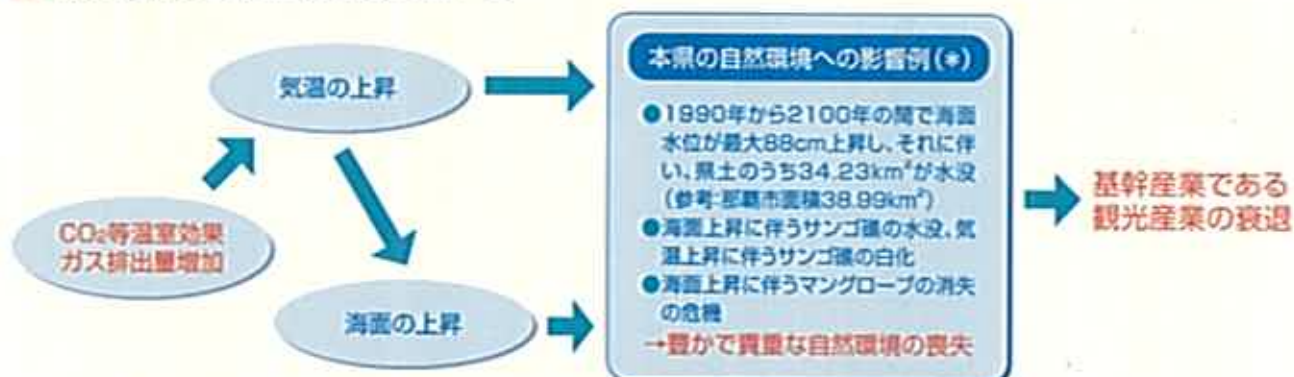
CO₂が増加すると、地球環境に対してさまざまな悪影響をもたらすことが危惧されています。このような背景のもと、我が国では1997年(平成9年)に京都議定書を採択し、2008～2012年までに6%削減(1990年基準)する必要があります。

地球温暖化の影響例 (北極の氷の厚さの変化)



CO₂の増加によってもたらされる悪影響は、対岸の火事ではありません。海に囲まれ、豊かな自然に恵まれた本県は地球温暖化の影響を大きく受けることが予想されます。もはや、地球温暖化防止に向けた取組は他人事ではなく、私たち一人一人が積極的に取り組んでいく必要があります、まさに「待ったなし」の状態なのです。

本県における地球温暖化の影響イメージ



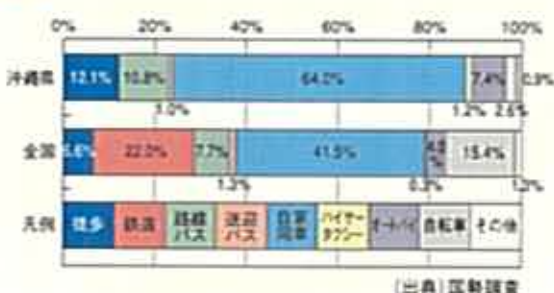
県内で排出されるCO₂のうち、なんと20%が自動車から…

モータリゼーションの進展に伴い、県内の人々の移動手段は自動車に大きく依存しています。そして、県内で排出されるCO₂のうち、実に20%が自動車から排出されています。

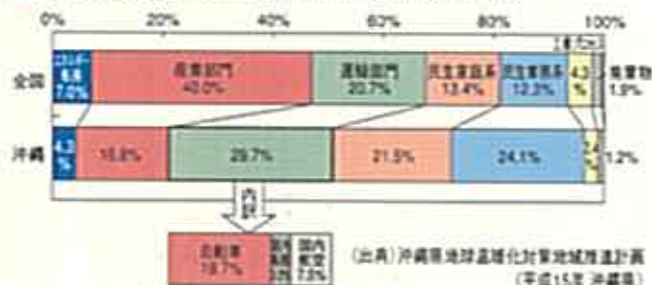
自動車は、通勤や買い物、物資の輸送など、ありとあらゆるところで必要不可欠な交通手段です。その一方で、環境に対して非常に負荷の高い交通手段です。

このことから、自動車から排出されるCO₂を削減させることが急務となっています。

通勤・通学時の利用交通手段(平成12年)



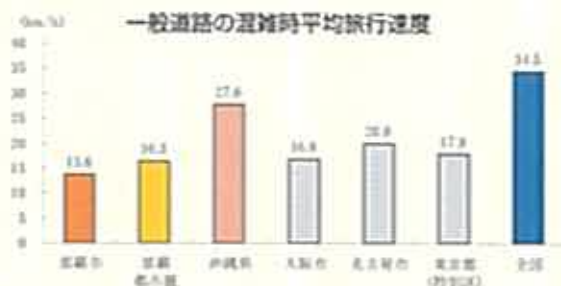
本県におけるCO₂排出特性(平成12年)



現況の道路交通およびCO₂排出の状況

混雑時平均旅行速度

- 那覇市周辺では、多くの区間において混雑時平均旅行速度が20km/hを下回っています。
- 混雑時平均旅行速度は那覇市で13.6km/h、那覇都市圏で16.3km/hと、いずれも三大都市圏の中心市より低くなっています。
- 沖縄県全体で見ても、全国平均の34.5km/hを約7km/hも下回ります。



区間別混雑時旅行速度



日交通量

- 那覇市付近で交通量が多く、国道58号・330号などでは6万台以上の区間が多くなっています。
- 那覇市周辺部において1~2万台、2~4万台の区間が点在しています。
- 沖縄自動車道の交通量は、1~4万台程度です。
- 南北方向の幹線道路を比較すると、一般道路（国道58号・330号・329号）では混雑が激しいのに対し、高速道路はすいています。



区間別日交通量



CO₂排出状況

- 沖縄県の道路交通における年間CO₂排出量は約150万(ton-CO₂/年)です(177センサスの交通量、混雑時平均旅行速度より算出しました)
- CO₂排出量の多い区間は、那覇都市圏を中心とする南部に集中しており、交通量の多い区間、混雑時平均旅行速度の低い区間と概ね同じです。

区間別CO₂排出状況



自動車からのCO₂排出量を減らすための取り組み

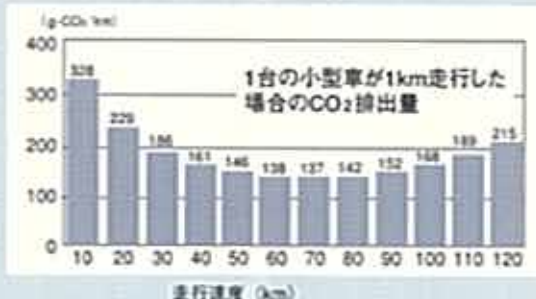
自動車からの年間のCO₂排出量の全国的な削減目標として、2010年までに約800万トン-CO₂の削減が掲げられており、沖縄県としても数万トン規模で削減する必要があります。

そのための取り組みとして、「自動車交通の量を減らす」と「1台・1人あたりの排出量を減らす」ことを目的とした施策をすすめてまいります。

1. 自動車交通の渋滞解消・緩和

CO₂排出量は速度が低下すると多くなるため、渋滞の解消・緩和により速度の向上を図ることで、1台あたりの排出量を減らします。

■ 走行速度とCO₂排出量の関係



(出典) 国土技術政策総合研究所資料

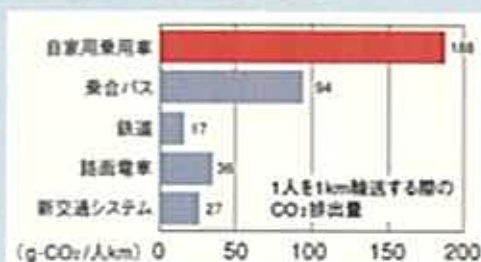
A 道路容量拡大施策

- 交差点改良やバイパス整備により、渋滞の解消・緩和を図ります。

2. 自動車交通からの転換

1人あたりのCO₂排出量が多い自家用車から、バスやモノレールなどの大量輸送機関への転換を図ることで、自動車交通の量を減らします。

■ 走行速度とCO₂排出量の関係



(出典) 国土交通省資料

B TDM施策

- 公共交通の利便性向上による自動車交通からの転換を図ります。
- 高速道路の利用促進、時差出勤や相乗り通勤などによる混雑時の走行速度の向上を図ります。

3. 自動車の使い方の見直し

混雑している経路や時間帯を避けたり、エコドライブを実施するなど自動車の使い方を見直すことで、1台・1人あたりの排出量を減らします。

C 自動車単体燃費向上施策

- 低公害車・低燃費車の導入及び普及、アイドリングストップの実施などによる自動車単体での燃費の向上を図ります。

A 道路容量拡大施策

主要渋滞ポイント50箇所の解消・緩和に向けて、右折レーンの延伸などの交差点改良や、バイパス整備を平成24年までに完了させることをめざします。

主要渋滞ポイントの解消・緩和【全50箇所】	交差点改良(12箇所)	○
	バイパス整備(35箇所)	○
	交差点改良とバイパス整備(3箇所)	○

主要渋滞ポイントの定義

一般道路 (DID内)	最大渋滞が1,000m以上 または、最大通過時間が10分以上
一般道路 (DID外)	最大渋滞が500m以上 または、最大通過時間が5分以上

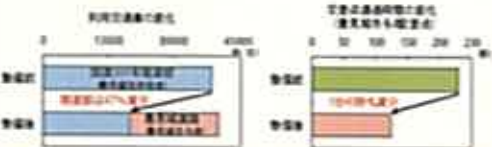
人工集積地区(DID)とは、「市区町村の区域内で人口密度の高い(約4,000人/km²以上)設置区が互いに隣接して、その人口が5,000人以上となる地域」をいう。



整備済事例バイパス整備

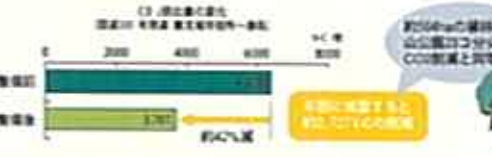
国道331号豊見城道路(豊見城市瀬長～豊崎間)

国道331号従来部の交通量の約半数がバイパスに転換し、それに伴い渋滞長、通過時間が減少



例えば、郡府空港～アクトレットモールあしひな間短縮

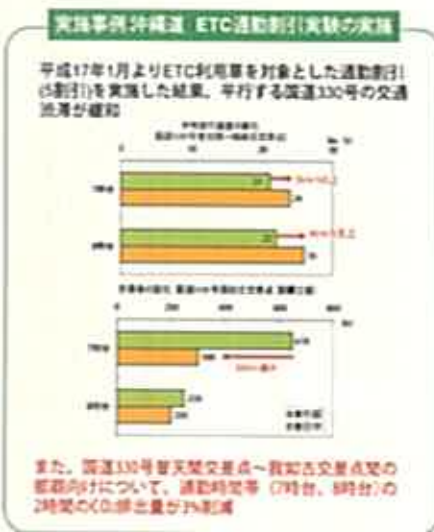
国道331号の交通が分散されることで、自動車から排出されるCO₂が従来区間において削減



約50%削減、CO₂削減と同等

B TDM施策

バスやモノレールなどの公共交通機関の利用促進策や一般道路から高速道路への転換促進などを推進していき、渋滞の解消・緩和を目指します。



**例 高速道路を
使ったクルマの燃費**
(〇カネ車種は燃費基準値)



注) 実験使用車種は排気量1000ccクラスの小型車

C 自動車単体燃費向上施策

アイドリングストップなど環境にやさしい自動車の運転方法など積極的にPRしています。

**例 アイドリング
ストップの効果**
(〇カネ車種は燃費基準値)



注) 実験使用車種は排気量1000ccクラスの小型車

みなさんをお願いする「かしこい自動車の利用方法」

自動車からのCO₂を削減させるためには、行政だけでなく、**県民みなさんの協力も不可欠**です。以下の3つの中から是非1つ選んで実行してください。みなさんのちょっとした行動で環境が大きくかわります。

1 モノレールやバスなどの公共交通で移動してください

公共交通に乗り換えた分だけ、自動車交通量が減少し、渋滞緩和に寄与します。

▶ 沖縄市～宜野湾市～浦添市～那覇市間を移動する車両のうち、20台に1台が協力してもらえれば約400t-CO₂/年(試算値)の削減が見込まれます。

自分で運転する必要がなくなるため交通事故に巻き込まれる可能性が減少します。また、お酒を飲んで家に帰れます。

2 混雑している一般道路ではなく、比較的空いている高速道路を利用してください

一般道路の交通量が減少し、走行速度が向上します。

▶ 国道58号や330号を利用している車両のうち、15台に1台が高速道路を利用するようになれば約3000t-CO₂/年(試算値)の削減が見込まれます。

所要時間が短くなりスムーズに移動ができることに加え、信号停止回数の減少、速度の向上等に伴い燃費がよくなります。

3 交差点等での停車時はアイドリングストップを実行してください

アイドリング時に排出されるCO₂が削減されます。

▶ 1回の自動車移動で、30秒のアイドリングストップをたった2回実行することで約1.3万t-CO₂/年(試算値)の削減が見込まれます。

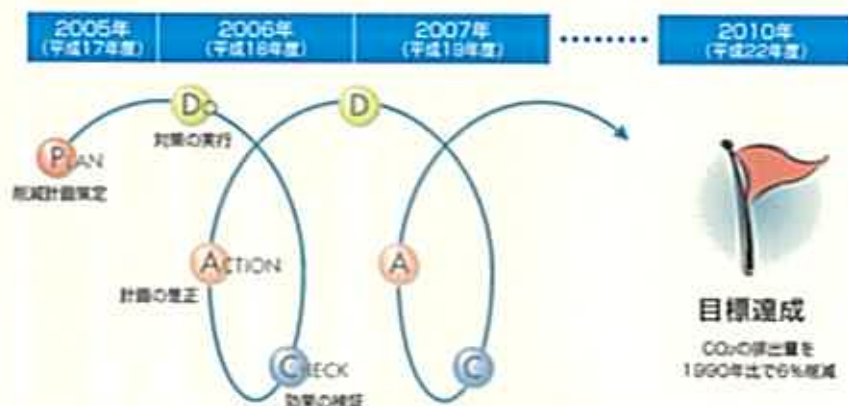
ガソリン消費量が減少し、その結果、ガソリン代がお得になります

🌐 沖縄や地球全体のメリット 👤 あなたご自身のメリット

注) 各文字で記載しているCO₂削減効果は、CO₂排出量計測実験結果やE11道路交通センサス結果などをもとに算出している。

目標達成に向けて

残された時間はわずかしかありません。目標達成に向けて、毎年、CO₂削減量をチェックし、計画通り削減されているかどうかチェックしていきます。そして、必要に応じて、対策の見直しなどを行っていきます。



このパンフレットでご紹介している内容は、
内閣府沖縄総合事務局道路部門ポータルサイト
<http://www.road.dc.ogb.go.jp/index.html>
でもご覧頂けます。

なお、本パンフレットの内容に関する
ご意見・ご感想など電子メールによるお問い合わせは、
dourokensetsuka@ogb.cao.go.jp
までお寄せください。



道から、ストップ温暖化。

ECO-ROAD

• お問い合わせ •

内閣府 沖縄総合事務局 開発建設部 道路建設課
〒900-8530 沖縄県那覇市前島2丁目21番7号
TEL 098-866-0091 FAX 098-864-1804

沖縄地方渋滞対策推進協議会

沖縄総合事務局

沖縄県

沖縄県警察本部

那覇市

西日本高速道路(株)
九州支社沖縄管理事務所